



1999

第九コンサート

in 倉敷

12月26日③3:00pm開演・倉敷市民会館

主催／倉敷第九を歌う会実行委員会 倉敷市合唱連盟 (財)倉敷市文化振興財団 倉敷市
共催／倉敷市教育委員会 後援／くらしき作陽大学 賛助／倉敷管弦楽団



1999年の最後を締めくくる、ベートーヴェンの「第九」の大合唱が師走の倉敷の街に響きわたります。

多くの市民のみなさんの「第九」を歌いたいとの思いが、練習に耐え、本日のこの「第九コンサートin倉敷」として実りました。

市民公募の倉敷第九を歌う会合唱団と倉敷管弦楽団が、高らかに歌い上げるステージは、大きな感動を呼ぶものとなるに違いありません。

本日のこのコンサートの御盛会を心からお祝い申し上げます。

倉敷市長

中田 武志



2000年の到来が秒読みになって、なにかと心せわしいこのごろです。慌ただしい時間の中だからこそ、心豊かにありたいものです。

市民のみなさんが中心となって、本日のコンサートが開催される運びとなったことは誠に意義深いことと思います。

このコンサートが、歌うかたは勿論のこと演奏されるかたにも、会場にお越しのみなさまにも、大いなる感動を共有できる時間となりますよう祈念いたします。

財団法人倉敷市文化振興財団理事長

谷口 澄夫



「おお、友よ、もっと快い、歡びに
みちた調べを歌いはじめよう。」

倉敷で「第九」の演奏会が開催されるのは、市民の手づくりとしては15年振りになります。公募により集まった合唱団員400人弱、倉敷管弦楽団100人、総勢500人の舞台は、久し振りに見る壯観なものとなりました。しかし、開催までの過程は大変なものでした。合唱団の60%は「第九」を歌うのは初めて。7月から始まった練習では、ドイツ語の講座に始まり悪戦苦闘の日々でした。他にも、役員、事務局の方々のご苦勞は大

変なものでした。合唱も次第に上達し、今では立派な合唱団になりました。オーケストラは、定評のある倉敷管弦楽団、本日は、必ず皆様のご期待に添える演奏会になると確信しております。

終りに、演奏会にあたりご援助頂きました多くの皆様、特に指揮の田中先生、倉敷管弦楽団、倉敷市文化振興財団他の方々に心よりお礼申し上げます。

倉敷第九を歌う会実行委員会 委員長

小山 裕章

倉敷第九を歌う会実行委員会名簿

委員長／小山 裕章

副委員長／飯田 永久 菊池 東

大原 正義 永田 桂輔 尾崎美智子 菊井 勝 板谷 伸一

プログラム

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

エグモント 序曲 Op.84

交響曲 第9番 ニ短調 Op.125 合唱付

第1楽章 アレグロ・マ・ノン・トロッポ ウン・ポーコ・マエストーソ

第2楽章 モルト・ヴィヴァーチェ

第3楽章 アダージョ・モルト・エ・カンタービレ

第4楽章 プレスト

指揮／田中一嘉

独唱／岡崎順子(ソプラノ)

矢内淑子(アルト)

日高好一(テノール)

大原正義(バリトン)

管弦楽／倉敷管弦楽団

合唱指導／小山裕章

合唱／倉敷第九を歌う会合唱団

パート指導者

大原久央子、中野良子、永田桂輔、仁科喜代蔵、馬場 修

練習ピアニスト

佐伯勝子、砂田和子、永田晶子、林 由記

ベートーヴェン エグmont序曲Op.84

「エグmont」とは、もともとゲーテの戯曲の題で、ベートーヴェン(1770-1827)は1809年から翌年にかけて、この劇のウィーン上演のために付随音楽を作曲した。もとの劇はフランドルの領主エグmont伯を題材としたもので、祖国をスペインの圧政から救うべく独立運動を指揮したエグmont伯が捕えられて死刑の宣告を受け、一方でエグmont伯を救おうとした恋人クレールヒェンも自殺に追い込まれるが、彼女は処刑を目前にしたエグmontの前に幻影として現われ彼を祝福する、という物語による。ベートーヴェンはこの劇に序曲および付随音楽9曲を作曲しており、とりわけ劇全体の悲劇性を見事に表現した序曲は傑作として、単独でもよく演奏される。暗く重々しい序奏の後、ソナタ形式の主部となって悲劇的な起伏のうちに発展、最後は、自由を求めたがために処刑された英雄エグmontを讃える力強いコーダで閉じられる。

ベートーヴェン 交響曲第9番ニ短調 Op.125

いわゆる「第九」の名で親しまれているこの作品は、終楽章に声楽(シラーの詩『歓喜に寄す』を歌詞とする)を取り入れた点で、交響曲史上空前ともいえる革命的な作品である。ベートーヴェンがこのシラーの詩を音楽化しようと構想したのは、初期の1790年代に遡る。人間性を尊重する当時の新しい思想に共鳴していた青年ベートーヴェンが、この人間賛歌の詩に心引かれたことは、ある意味で自然の成り行きだったともいえるだろう。

しかしその構想はなかなか実現せず、ようやく晩年になって、この交響曲第9番として結実することになった。旧体制が復活(ウィーン体制)し、一般の風潮も体制への失望と無力感から享乐的な趣味へと走るようになっていた時期のことで、それゆえにベートーヴェンは改めて理想主義的な人間尊重の思想を人々に強く訴えかけたかったのではないだろうか。本来純粋な器楽のジャンルである交響曲に声楽を導入し、具体的に歌詞でもってメッセージを明確に表現するという大胆な手段を取ったのも、彼のそうした姿勢の現れといえよう。かかる思想的な表現のために、この作品は声楽の導入という点以外にも、例えば最初の3つの楽章に見られる規模の大きさと深遠な内容、終楽章の形式的自由さなど、様々な画期的な手法を取り入れた革新的な大作となっている。作曲の着手はおそらく1818年頃であるが、本格的に筆が進められた

のは1822年終りから1824年2月にかけてである。初演は1824年5月7日ウィーンで作曲者自身の総指揮のもとに行われて大成功を収めた。

第1楽章(アレグロ・マ・ノン・トロッポ、ウン・ポーコ・マエストーソ)は、徐々に主題が形成される神秘的な導入で始まるスケールの大きなソナタ形式楽章。第2楽章(モルト・ヴィヴァーチェ)は劇的なスケルツォで、軽快な動きのトリオ(プレスト)が挟まれる。第3楽章(アダージョ・モルト・エ・カンタービレ)は、静謐なアダージョ主題と優美なアンダンテ・モデラートの主題とが交互に変奏されていく奥深い緩徐楽章。第4楽章はまず激しい総奏(プレスト)で開始され、さらに先行の3つの楽章の一部が回想される。しかしこれらの回想はいずれも低弦によって打ち消され、代わりに理想の主題としての歓喜主題(アレグロ・アッサイ)が呈示される。再び冒頭の総奏が現れると、今度はバリトン独唱が「おお友よ、この調べではない」(この部分はシラーの原詩にはなくベートーヴェンが加えたもの)と叙唱で述べ、改めて歓喜主題によってシラーの詩を歌い出し、合唱がこれを発展させる。以後、テノール独唱が活躍するトルコ行進曲、管弦楽のみのフガート、合唱による宗教音楽風の厳かな部分、堂々たる二重フーガなど、起伏に満ちた発展を織り成し、最後は圧倒的な高揚を示すコーダで閉じられる。



指揮

田中一嘉

Kazuyoshi Tanaka, Conductor

1953年東京生まれ。桐朋学園大学音楽学部卒業。指揮を故斎藤秀雄、小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明、の各氏に師事。コントラバスを江口朝彦、堤俊作の両氏に師事。在学中より同大オーケストラ定期演奏会、オペラ公演等を指揮。日本オペラ協会、長門美保歌劇団副指揮者、東京アカデミー合唱団の指揮者として数多くのオペラ、合唱曲、特に宗教音楽分野での実績を積む。76年、第4回民音指揮者コンクール入選、奨励賞受賞。桐朋学園大学卒業

後、東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、九州交響楽団、札幌交響楽団等、日本各地の主要オーケストラを指揮。現在、大阪フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団を活動の中心に置き、92年にはヤナーチェク春の国際音楽祭でヨーロッパデビュー。95年にはカルロビ・ヴァリ交響楽団を指揮するなど、その活動は多岐に及ぶ。88年より昭和音楽大学非常勤講師。



ソプラノ

岡崎 順子

Junko Okazaki, Soprano

岡山大学卒業、愛知県立芸術大学大学院修了。金光武義、矢部礼子、小島琢磨、中山悌一、故木下武久、故R.シュライヒ、H.クレッチマルの諸氏に師事。

バッハの教会音楽や、モーツァルトのミサ曲には定評があり、1990年ドイツ留学中、デットモルト他において、バッハ「クリスマス・オラトリオ」を歌い、好評を博す。また、E.オッテンザマー(K1)とシューベルト「岩の上の羊飼ひ」を共演するなど、幅広いコンサート活動のほか、7回のリサイタルを開催する。

オペラでは、中国二期会の公演を中心に、「フィガロの結婚」のスザンナ、「コシ・ファン・トゥッテ」のテスピーナ、「魔笛」のパパゲーナ、「カルメン」のミカエラ、「夕鶴」のつう、「ラ・ボエーム」のミ等を演じる。

現在、岡山県立大学短期大学部教授、中国短期大学音楽科非常勤講師。中国二期会、岡山バッハ・カンタータ協会、日本演奏連盟会員。



アルト

矢内 淑子

Toshiko Yanai, Alto

国立音楽大学音楽学部声楽科卒業。同大学院、同音楽研究所研修生修了。石田徹、井上貞一、西内静、木下武久、西内玲の諸氏に師事。

オペラ活動としては、「魔笛」、「フィガロの結婚」、「コシ・ファン・トゥッテ」、「ヘンゼルとグレーテル」、「マーブラ」、「海の子守唄」、「おこんじょうるり」、「うかれのひょう六機織唄」、岡山シンフォニーホール「このけら落とし」に初演された「ワカヒメ」等々に出演。

コンサート活動としては、バッハのカンタータ、ヘンデルの「メサイヤ」、ペルゴレージの「スタバート・マーテル」等にアルトソリストとして共演。1984年、'88年、'94年、'96年リサイタルを開催。

阪神大震災チャリティーコンサートでは、ウインフィル首席クラリネット奏者エルンスト・オッテンザマー氏と共演し、シュポアー作曲「六つのドイツ歌曲」を、1996年ブルガリア国立室内オーケストラの演奏会ではアルトソリストとして共演し、ペルゴレージの「スタバート・マーテル」を歌う。1995年こどもの権利条約の意義を表現したミュージカル「メラニコリック・キッズ」を指揮。他にアマチュア合唱団の指導、指揮に当たる。

現在：旭川荘厚生専門学院児童福祉科教務主任、岡山大学教育学部非常勤講師、川崎医療福祉短期大非常勤講師、中国二期会、岡山音楽家協会、岡山バッハ・カンタータ協会、瀬戸内混声合唱団指揮者、旭川荘ゆずり葉合唱団指揮者

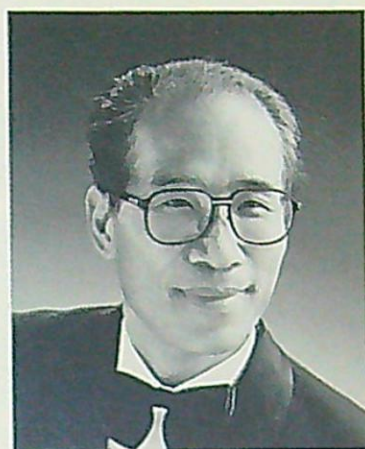


テノール

日高好一

Koichi Hidaka, Tenor

洗足学園大学音楽学部、同専攻科修了。
島田恒輔、三枝喜美子、田原祥一郎の諸氏に師事。
アレクサンダー・アレクセイ、アルベルト・レオーネ、レナータ・テバルディ、ミーノ・ファネッリのレッスンを受ける。東京二期会合唱団に在籍し、数々の二期会オペラに出演。79年中国二期会移籍、「魔笛」タミーノ役でデビュー。以来「椿姫」アルフレード、「カルメン」ホセ、「蝶々夫人」ピンカートン、「コジ・ファン・トゥッテ」フェランド、「こうもり」アルフレード、アイゼンシュタイン、「夕鶴」与ひよう、「リゴレット」マントヴァ侯爵、「ジプシー男爵」バリンカイ、「メリー・ウイドゥ」カミーユ、「じゅごんの子守唄」宗晴、「ドン・ジョヴァンニ」オッターヴィオ、「ラ・ボエーム」ロドルフォ等数多くの主役をこなし、東京、大阪を始め中国、四国、九州の各地で客演。中国二期会理事を10年務めた後92年よりフリーのソリストとして活動。93年、東京NHK ホール開局20周年記念公演オペラ「ワカヒメ」田狭役。東京公演にて日本のトップソリストと共演。(CD発売中)94年、堺シティオペラ「リゴレット」マントヴァ役にて、スカラ座のテノールテッラノーヴァとWキャストを組み美声と完璧な歌唱を高く評価される。等トップテノールとして活動を続け20年間に出演総数100回を数える。また永年に亘って数多くのオペラ制作を手掛け「蝶々夫人」「夕鶴」等の上演により福山市民文化賞を受賞。オペラ活動のほかリサイタル10回以上、宗教曲ソロ、出演多数。近年は研究所にて後進の指導にも当たっている。80年、第11回日伊声楽コンクールソテノール特賞受賞。84年、第19回民音コンクール声楽部門入選。94年、福山市民文化賞受賞。
現在、岡山大学教育学部、中国短期大学音楽科非常勤講師、日本演奏連盟会員、日伊声楽コンクール審査員。香芝市文化振興財団主催ふたかみ市民オペラ顧問。日高好一オペラ研究所主宰。



バリトン

大原正義

Seigi Ohara, Barytone

国立音楽大学声楽科卒業。益田 遥、井上貞一の諸氏に師事。

ヘンデル「メサイヤ」、ハイドン「天地創造」、フォーレ「レクイエム」、ショスタコービッチ「森の唄」、岡山第九を歌う会主催「第九」のソリストとして11年連続出演する。オペラでは「ボギーとベス」のクラウン、「ヘンゼルとグレーテル」のペーター、「魔笛」のザラストロ、「フィガロの結婚」のフィガロ、「カルメン」のエスカミーリョ、「泥棒とオールドミス」のポップ、「夕鶴」の惣ど、「仏陀」のスッドターナ王、「こうもり」のファルケ博士とフランク、「泣いた赤鬼」の青鬼、「ワカヒメ」の前津屋と小根、「ラ・ボエーム」のコルリーネ、「ドン・ジョバンニ」の騎士長、その他に数多くに出演している。

立派な体格と低音から高音まで伸びる深みのあるバスバリトンの声は、中国、四国のオペラ界にとって貴重な存在である。

現在、中国短期大学教授、中国二期会理事、中国短期大学フラウエンコール指揮者、岡山大学男声合唱団コールロータス・ヴォイストレーナー



第九を歌う会合唱団(合唱)

Chorus

今年7月、「1999第九コンサートin倉敷」に向けて結成。「市民総参加で、感動の第九づくりを」との趣旨から、倉敷市合唱連盟加盟の合唱団および市内外の合唱団から約260人、一般参加者約140人、合計約400人の大合唱団を編成。倉敷市、岡山市周辺はもとより、備前市、高梁市、里庄町、井原市などからも参加。また、岡山、高松などの「第九を歌う会」のメンバーも参加している。年齢も15～78歳と多彩である。

倉敷市合唱連盟(飯田永久理事長)の関係では、「倉敷市民合唱団」、「川崎製鉄水島混声合唱団」、「瀬戸内混声合唱団」、「水中翼船」、「倉敷少年少女合唱団」、「倉敷男声合唱団」、「あざみコーラス」、「コール・ピクルス」、「コール・フローラ」、「コールローゼ」、「コスモスコーラス」、「コールファミリー」、「コールひまわり」の各団から参加。

倉敷市合唱連盟は主要行事として毎年、「サマーコンサート」を8月に、「合唱フェスティバル」を12月に開催しているが、今年は「合唱フェスティバル」に代えて、「第九」に取り組んだ。

パート指導等は倉敷市合唱連盟各団の指導者が分担。全体指導は、「倉敷第九を歌う会実行委員会」委員長小山裕章氏が中心である。

今回と同様の構成による演奏会としては、第2回倉敷音楽祭の交響詩「瀬戸内賛歌」、第7回倉敷音楽祭のオラトリオ「森の歌」、第9回倉敷音楽祭の市民で歌う大合唱「ヘンデルのメサイヤ」、などの実績がある。

1984年12月には、類似の構成で倉敷管弦楽団とベートーヴェン「第九」を共演。市民参加の大合唱の形の「第九」は、倉敷では15年ぶりとなる。



倉敷管弦楽団(管弦楽)

Kurashiki Orchestra

「美しい音色と良いアンサンブルで質の高い演奏を」を合言葉に1974年設立。82年岡山県文化功労賞、85年倉敷文化連盟賞を受賞。

定期演奏会の客演指揮者に堤俊作氏、金洪才氏、佐渡裕氏、増井信貴氏ら。フルートの世界的巨匠ジャン・ピエール・ランパル氏。ヴァイオリンのイヴリー・ギトリス氏、和波孝禧氏、天満敦子氏。ピアノの伊藤恵氏、花房晴美氏。チェロの岩崎洸氏、山崎伸子氏。オーボエの茂木大輔氏。トランペットの津堅直弘氏。ホルンの松崎裕氏。ギターの福田進一氏らを招聘。また岡山県内で活躍する音楽家とも共演。

演奏曲はバロックから現代曲までと幅広い。團伊玖磨氏作曲「管弦楽のための高梁川」を初演。オペラではモーツァルト作曲「魔笛」、「フィガロの結婚」、「コシ・ファン・トゥッテ」。ビゼー作曲

「カルメン」。J.シュトラウス作曲「こうもり」。フンパーディンク作曲「ヘンゼルとグレーテル」。プッチーニ作曲「蝶々夫人」等を演奏。

創立10周年記念演奏会では400名からなる第九演奏会。15周年では「三枝成彰with倉敷管弦楽団スーパードリーム・ジョイントコンサート」。20周年ではイヴリー・ギトリス氏、岩崎洸氏との「コンチェルトの夕べ」を開催。倉敷音楽祭にも数多く出演。ミュージカル「11匹のネコ」、「温羅と桃太郎」、ショスタコヴィッチ作曲オラトリオ「森の歌」、ヘンデル作曲「メサイヤ」、プッチーニ作曲歌劇「ラ・ボエーム」等を演奏。また、本年9月は、おかやま後楽園300年祭イベント〈オーケストラの夕べin後楽園〉に出演。

倉敷管弦楽団 出演者

第1ヴァイオリン

佐藤真理子
阿曾沼和代
岡崎良弘
赤木信子
飽浦良和
岩瀬裕子
大原房子
大森彩子
岡崎将丈
木村啓子
小林佐知
陶山容良
千田美幸
中塚えりか
中野尚美
旗田真由美
丸山博樹
柳井典子

第2ヴァイオリン

樽谷美幸
井上雄史
上原保美
川手理恵子
竹内律子
土井由貴子
芳賀加英子
平松綾
平松鋭子
福田みどり
藤田真理
牧紀子

三宅聡子
三宅郁子
村上節美
山内優子
渡辺幸子

ヴィオラ

菊池東
武本克己
井上麻里
津島瑞江
新見由枝
日笠京子
三宅美智子
八木原周平
山本浩之
北山三枝子
坂昭男

チェロ

石川恵子
光延勢吾
池田誉
栗木由美子
黒田正典
田中光子
田辺幹夫
田宮真紀
辻田順子
寺坂礼
中田裕人
橋本剛
平松真弓

本守妃佐子

コントラバス

本屋敷勝信
大井竜太郎
大山都
小林利江
高橋薫
羽原佳子
松本高広
斉藤賢一
古沢神介

フルート

坂井昌子
月本裕子
浜園佳恵
坂口充倫

オーボエ

細美肇
佐口康晴
西村生子
吉田容子

クラリネット

福力美保
安原由美
秋田由紀子
藤井明子

ファゴット

稲田裕彦

中川佳己
奥野倫代
北村直也

コントラファゴット

太田茂樹

ホルン

吉市幹雄
文谷功
板谷信昭
熊沢和美

トランペット

原田宗範
山口裕司
山口博子
吉国均

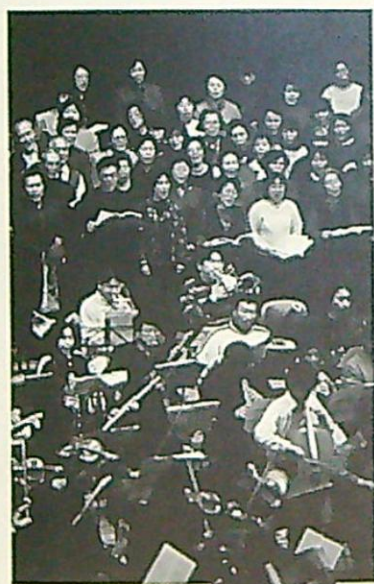
トロンボーン

松尾浩寿
曾布川拓也
樋口仁

パーカッション

影下明子
平田誠
平松奉一
藤井由紀

計101名



第九を歌う会合唱団

ソプラノ

赤木美恵子	高木三佳	平瀬玲子
鮎浦千春	高橋祥子	福永暁子
井頭朋子	高橋道子	福島亜紀
石井美穂子	高瀬喜久子	藤原登喜枝
石谷喜代子	竹内圭子	藤原幾子
磯部和恵	武田時子	藤原淑子
伊藤貴美子	武本千恵	藤田美津子
井上香代子	竹本美江	藤原純子
今川真由美	立間みずほ	藤原真理子
上田エリ子	田邊記子	堀直美
梅岡あかね	田中清子	的場清美
大原久央子	田村清子	三島加津子
岡田京子	角田いづみ	南方須賀子
小河原房恵	露野京子	味野笑子
尾崎美智子	寺岡玲子	養淳子
香川幸恵	戸叶久子	宮岡久仁子
勝田佳子	友杉礼子	三宅澄子
金田澄子	鳥越悦子	三宅博美
川上能婦子	中西恵子	三宅史子
川畑由紀子	中島久美子	三宅好恵
河合知香子	中野良子	宮部幸恵
川縁淑子	中谷彰子	向原優美
清中康子	中村満智子	村上道子
清久一美	中川珠美	本常暁子
國枝美智子	中野和江	森藤典子
小林恵子	中溝妙子	森山裕子
近藤八重子	中村隆子	山下容子
佐藤由美	那須洋子	山本まさみ
佐藤早苗	錦織淳美	山口知子
真田彰子	長谷川純子	山縣衣里
島村由紀	長谷川隆子	山田京子
清水康子	畑彩華	柚木文美
清水幸子	林京子	吉永ゆり子
下山加寿子	林桂子	渡辺隆子
住本奈保美	原田香代子	渡辺君子
洲脇範子	原田七穂	渡辺順子
太漏昌子	比嘉孝子	
高橋康子	東とよ子	
高田香	日高志保子	

アルト

相磯真美子	甲斐田富子	隅田紀美恵
青井誉	貝原緩子	瀬戸美恵
青葉美代子	柏野美代	高田悦子
秋岡宣子	梶谷淳子	高田幸子
浅野千穂子	梶谷好美	高橋篤子
阿尻美冴	片岡真知子	高木啓子
荒井規恵	加藤祥子	高橋育代
有明絢美	甲谷豊子	高田悦子
有元友美	川口いづみ	武内千賀子
池田三重子	河田智子	竹内玲子
伊澤順子	吉川一恵	谷口由美子
石原伸子	吉川早苗	谷本雅子
石井能婦	木村豊子	谷扶碓子
石崎晶子	木本さち子	檀浦和子
石崎静	木本清子	柘野良子
石渡千恵子	葛島愛子	辻井維子
犬飼喜久子	久保スガエ	土井晶子
井上喜子	栗坂節子	徳永みどり
井上恭子	黒木恭子	内藤典子
岩井佳恵	黒江みどり	中原京子
岩谷君江	古城ひろ子	中田千恵子
上田八重子	小島聡子	永田美知子
内田美知子	五藤美子	中井美代子
内田美代子	小西協子	中藤文子
胡田依子	小橋幸子	中山淳
大倉トシ子	小林十四恵	難波陽子
大竹光子	小村知子	難波節子
大島保子	古屋野直美	西雅子
大橋千恵子	齋藤洋子	西本麗子
大室洋子	榊原光恵	野口春美
岡本雅子	佐藤淑子	則武順子
小川玉子	塩飽志保子	橋本掬穂
小川友美	篠田祥子	長谷川満寿美
小河原浅恵	志村恭子	浜上晴美
荻田昭子	下村美代子	浜野昌代
沖本笙子	新宮静子	林裕子
奥田昱枝	杉紀子	原光子
小郷花子	砂田和子	原操
小野祐子	須磨政子	原野ツミ子

第九を歌う会合唱団

アルト

樋口節子 矢島佳子
 檜尾佳名子 安永貴子
 平田五女 安原敦子
 平川かおる 安田悦子
 福田修子 山本のぞみ
 藤原秀子 山中康恵
 藤城美也 山本のりみ
 藤原千代子 柚木史子
 藤原洋子 横山真佐子
 藤原勝代 芳野典子
 藤澤美江子 吉井澄子
 藤村由紀 鷺田恵美子
 藤本真弓 渡辺玲子
 藤原由紀子 和田堯子
 古市啓子
 堀内淳子
 堀内加津子
 前田直子
 横田恭子
 松本邦子
 松谷百合子
 松原雅子
 真辺知栄
 丸山悦子
 丸山洋子
 水谷知子
 水島絢子
 水畑暁子
 見村久美
 宮崎由香
 三宅民子
 三宅純子
 宮廻貴己子
 村中きく江
 免出文子
 持田光枝
 本常香織
 森田和美
 森脇芳子

テノール

市村喜八郎 渡辺敏行
 内田毅
 大森功資
 大西純三
 奥井伸二郎
 恩藤哲哉
 柏野磐太根
 河相裕三
 川上英治
 菊伊幸治
 木村卓朗
 楠戸平五郎
 久保田謙治
 小林勉
 坂口進
 佐々木康弘
 佐藤孝彦
 沢山俊民
 須々木修
 高橋峻伸
 高杉晶
 田淵貴志
 辻田峯夫
 上屋隆生
 藤南和将
 中島聡
 永瀬恵
 永田桂輔
 難波建詞
 仁木富彌
 馬場修
 平野隆弘
 福島茂
 藤井真吾
 松本正美
 水南規之
 山口誠
 山本勝
 吉田精二

ベース

明翫隆弘 西原義郎
 有明弘昭 西岡和正
 飯田永久 仁科喜代蔵
 池田満志 西本慶二郎
 石丸貴史 野口紀生
 石井義明 畠山裕二
 石井保明 浜本昌男
 石井正美 原田一郎
 泉宏 平川雅彦
 板谷知 福留正治
 井上俊彦 福田治郎
 井上朋也 藤岡一以
 岩本修 藤澤建太郎
 岩下洋介 藤山進
 江口二郎 増山保雄
 江口雅一 松浦勝
 大森章生 光成和敬
 大木芳男 宮宇地弘己
 大熊茂男 守屋清
 岡部知史 喜田雄治
 岡田純爾
 緒方隆三郎
 小川博生
 尾崎実
 織田友和
 川崎洋
 木本克
 計盛元宣
 香西卓也
 小林斧二郎
 佐々江久平
 志村純
 白神隆志
 杉山正博
 芹田勝利
 高田重信
 徳田政太郎
 徳田浩一

